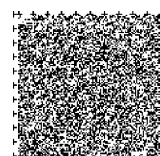


情報通信の活用と社会参加の促進に向けて

# 障害者のICTを活用した社会参加

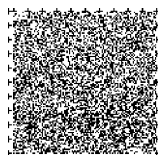
情報通信

事例集



## 目次

はじめに	3
<b>事例 1 ユニバーサルデザインのまちづくり、就労システムの提案に参加</b> …… 4 NPO主宰者（特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい）／身体障害（視覚障害）	
<b>事例 2 ICTを活用して、新たに分野や地域を越えて活動が拡大</b> …… 5 非営利活動団体事務局運営（障害者欠格条項をなくす会）／身体障害（聴覚障害）	
<b>事例 3 パソコン技術を活かしてオンラインショップを起業</b> …… 6 オンラインショップ経営者（コミニショップ Let's）／身体障害（視覚障害、肢体不自由）	
<b>事例 4 テレワークによって、自分の技能を活かせる仕事に故郷で従事</b> …… 7 テレワーカー（黒潮町雇用促進協議会）／身体障害（肢体不自由）	
<b>事例 5 技術研修を受講し、CADによる図面作成の仕事に従事</b> …… 8 テレワーカー（特定非営利活動法人かめかめ福祉移送）／身体障害（肢体不自由）	
<b>事例 6 司書として視覚障害者向けの図書館サービスに従事</b> …… 9 図書館司書（大阪府立中央図書館）／身体障害（視覚障害）	
<b>事例 7 ICT講習会の講師にあこがれ、今では自分が講師に</b> …… 10 ICT研修講師（パソボラサークル）／身体障害（視覚障害）	
<b>事例 8 パソコン通信での交流が社会参加活動へのきっかけに</b> …… 11 CAD業務（リオン株式会社）／身体障害（聴覚障害）	
<b>事例 9 支援団体での活動が認められ、技能を活かせる会社に就職</b> …… 12 Webシステム開発者（Man to Man G Animo.com 株式会社）／身体障害（肢体不自由）	
<b>事例 10 短時間勤務と在宅ワークでパソコン技術を活かせる仕事に従事</b> …… 13 ネットワーク管理者（特定非営利活動法人わくわくかん）／精神障害	
<b>障害者のICT利活用による社会参加のための支援の在り方</b> …… 14 平成18年度「高齢者・障害者のICT利活用の評価及び普及に関する調査研究 報告書」概要	
<b>総務省の事業紹介</b> …… 15	



## ■ はじめに ■

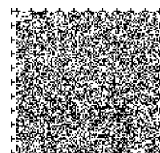
インターネットをはじめとするICT（情報通信技術）の急速な発展により、生活の利便性が向上し、社会・経済活動の効率化・高度化が促進され、新しいコミュニティ活動が生まれるなど、わたしたちの生活に大きな恩恵を与えています。特に障害者の方にとっては、これまで情報入手や、コミュニケーションの場面での効果が広く言われてきましたが、ICTを利活用することにより、自立生活だけでなく、コミュニティ活動や在宅での就業といった社会参加活動が可能になるなど、より大きな便益を得られることが期待できます。

しかしながら、現状は必ずしも障害者の方が十分にICTを利活用できる状況にあるとはいえません。この背景としては、障害者の方への、ICTスキルを有した人材育成やICTを活用した社会参加を支援する体制が十分でないことがあります。また、障害者の方に対してICTの利活用によってもたらされるメリットが、十分には伝わっていないといった指摘もあります。

こうした現状を踏まえ、総務省では、障害者の方のICTを利活用していく動機づけに役立てるために、障害者の方がICTを利活用して社会参加を行っている事例を収集し、社会参加活動の様子ならびに利活用の効果を取りまとめました。本冊子にはそのうち10の事例を紹介しています。

また、ICT研修や実際の請負業務等の支援まで、さまざまな形態で障害者のICT利活用を支援している団体についても紹介しています。

本資料が、障害者の方のICTの利活用、さらには社会参加促進の一助となれば幸いです。また、取材にご協力いただいた方に、ここにあらためて深謝いたします。



# ユニバーサルデザインのまちづくり、就労システムの提案に参加

## 活躍までの経緯・活動の内容

失明して3年後に、1ヶ月間、島根県障害者職業支援センターに週3回通学して基礎講座を受講し、基礎を習得しました。パソコンは自費で購入しました。受講後、パソコン通信やインターネットを通して、いろいろな人と交流し、パソコン使用について教えてもらいながら徐々に操作ノウハウを向上させてきました。

この間、多様な視覚障害者の社会参加活動機会や場をつくるさまざまな事業に積極的に関わってきました。

現在、プロジェクトゆうあいの事業等を通して、県内で開発された福祉機器（例：触覚ディスプレイ、微弱電波音声案内システム）の開発や、それらを全国に普及するための事業、ネットワークを利用した新たな作業所における障害者就労システムを提案する取り組みや活動に参加しています。また、プロジェクトゆうあいの職員として、視覚障害者（全盲）の方を採用しました。ICTを活用した雇用機会の創出に努めて一層がんばっていきたいと思っています。



## 課題

自身のICTの習得にとって、日ごろから身近にパソコンボランティアがいてくれたことが力強いサポートとなりました。この経験から、メーリングリストを活用したボランティアセンターを構築して、パソコンボランティアの育成・確保の推進役として活動したいと考えています。

## 三輪利春さん

- 視覚障害（中途障害）。
- 県立の研修機関でパソコン操作やプログラミングの基礎を習得後、周囲のパソコンボランティアの友人たちの支援を得てスキルを向上。
- 「特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい」を有志と設立し、ユニバーサルデザイン普及のための啓発、ICT関連機器やシステム、就労システムの開発や普及に活躍している。

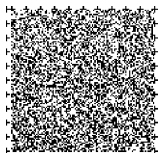
## ICTを活用してよかったこと

パソコン、インターネットがなければ、現在の多くの社会参加活動は全く実現できなかったと思います。パソコンを通して友人を増やすこともできました。今後、障害者の社会参加推進にICTが果たす役割について、さらに可能性を追求していきたいと考えています。

## 特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい

島根県の高度情報化を推進するボランティアグループ「プロジェクト23」「島根ユニバーサルデザイン研究会」の有志と設立。「障害者の自立支援」「情報化の推進」「人にやさしいまちづくり」をキーワードに活動している。

- 設 立 2004年7月
- 所 在 地 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 島根県市町村振興センター2階  
TEL: 0852-32-8645 FAX: 0852-32-8645  
E-mail: info@project-ui.com
- ホームページ 「プロジェクトゆうあい」 <http://www.project-ui.com/>  
「プロジェクト23」 <http://www.pj23.gr.jp/>
- 業務内容 情報機器や情報ネットワークについての啓発活動、ユニバーサルデザインの啓発広報活動、障害を克服するための生活支援機器などの情報収集と広報活動、障害を持つ人のための日常生活情報の提供 等



# ICTを活用して、新たに分野や地域を越えて活動が拡大

## 活躍までの経緯・活動の内容

自学自習に加え、周囲で使いこなしている人に聞きながら、必要に迫られてICTを使ってきました。専門教育は受けていません。

習得後も、日常的にメーリングリストや個人間でメールやチャットを行い、ソフトや機器などについて意見交換しています。

社会参加活動としては、障害者の自立生活運動で活動する中、1999年に非営利団体「障害者欠格条項をなくす会」の発足を呼びかけ、以後、事務局を担っています。事務局では、ICTを活用して、情報発信、相談、データ整理などを行っています。

## 臼井久実子さん

■幼い時からの聴覚障害および言語障害。自学自習に加え、周囲で使いこなしている人に聞きながらICTを習得。

■非営利活動団体の事務局として、欠格条項調査と公開、相談等の対応、ニューズレターの発行、書籍やパンフレットの編集、イベント開催、政策提言等を実施。



臼井久実子さん（写真左）

## 課題

専門の研修や教育を受けようとした場合、文字通訳（要約筆記）や手話通訳などの情報保障が得られるかが大きな問題となります。

また、障害者ばかりの学校や研修、職場、あるいは在宅でスキルを養っても、実際に社会でコミュニケーションしながらスキルを活かすことは難しい状況にあります。そこで、障害の有無に関わらず、共に学び共に働くことができる環境をつくる必要があると感じています。

メールはめざましく普及しましたが、一方通行であり、相手から返ってこなければ、電話せざるを得ません。また、連絡先が電話番号しか掲載されていないと、自分自身で連絡をとれないので、メールやFAXも併記が必要です。双方向リアルタイムで視認できる通信を、いつでもどこでも誰とでもできるようにすることが求められます。

## ICTを活用してよかったこと

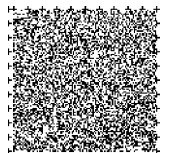
聴覚障害者にとって、情報発信・収集、未知の人々との連絡にICTは必要不可欠です。人に依頼することの多かった電話も、大部分は電子メールで可能となりました。

電子メール、メーリングリストを活用して、広汎に連絡できることは、社会活動の基礎となっています。また、自らインターネット等で調べものができ、その結果を発信できるという効果もあります。

さらに、コミュニケーションを図ることで、双方向で情報や意見を共有でき、それが取り組みのベースとなっています。様々な人や団体と新たに分野や地域をこえてつながるなど、周囲への波及効果も生まれています。

## 障害者欠格条項をなくす会

- 設立 1999年5月
- 所在地 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-8 武蔵野ビル5階  
TEL: 03-5282-3137 FAX: 03-5282-0017  
E-mail: info\_restrict@dpi-japan.org
- ホームページ <http://www.dpi-japan.org/friend/restrict/>
- 業務内容 国内の法令・諸制度における障害者欠格条項をなくすことを最終的な目的として、欠格条項に関する調査、相談・情報提供、政策提言等を行う。



# パソコン技術を活かして オンラインショップを起業

## 活躍までの経緯・活動の内容

高校3年生のときに事故で重症を負い、四肢、視覚、発話に障害を負いました。

リハビリを受けていた作業療法士からパソコンを勧められたのが利用のきっかけです。

静岡障害者職業センターで1～2ヶ月の短期講習があり、ワープロを教わりました。その後、インターネットをやりたいと思い、作業療法士にアクセシビリティに取り組

んでいる企業を紹介してもらい、機器に触れさせてもらうなどしました。

研修などを受ける中で、一般企業への就労が難しいと感じ、自分が知識を持っている、パソコンや視覚障害者の用具の分野で起業しようと考え、ネット上にオンラインショップを開設しました。起業経験のある障害当事者との出会いがあり、アドバイスを得ることができました。当店で買物をしたことのある顧客数は、およそ1000人に達しています。



## 清野一博さん

■視覚障害、肢体不自由。理学療法士等のアドバイスをもとに、研修と独学で技術を習得。

■一般企業への就労が難しいのならば、得意分野で起業しよう、パソコンの知識を生かし、障害を持つ起業家のアドバイスを得ながら、オンラインショップを起業。

■技術的な壁については、ネット上のつながりによる情報交換の中でも解決。

## ICTを活用してよかったこと

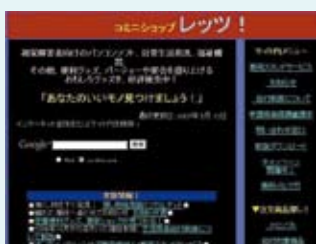
インターネットを始めることで、人とのつながりが生まれました。分からないことを質問すると知っている人が答えてくれて、独学で勉強する以上に分かりやすかったです。また、情報を得るだけでなく、自分からも情報を提供するようにしています。

個人で起業したビジネスは人の紹介や口コミでつながっている部分が大きく、ネット上なので遠いところからの注文もあります。こうした広がりには情報通信の力が大きいと感じています。

パソコンは様々な可能性のある道具であり、その人その人で様々な使い方が可能となります。

## コミニショップ Let's

- 設立 2002年4月
- 所在地 静岡県三島市  
TEL: 055-976-6967 FAX: 055-976-6967  
E-mail: info@cs-lets.com
- ホームページ <http://cs-lets.com/>

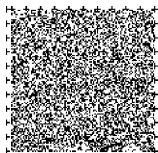


■業務内容  
視覚障害者向けのパソコンソフト、日常生活用具、福祉機器などを扱う。買い物を楽しめるように、ストレスが少ないサイトを目標に。

## 課題

起業時は、仕事にかかりきりとなり、無理をして身体を壊してしまいがちですので、身体を維持していくことも考えなくてはなりません。

情報通信の活用は、障害者が起業する可能性を秘めていることから、個人が起業する際の支援を充実して欲しいです。情報通信を活用しての就労を考える際、個人が起業するという選択肢をもっと広めてもよいと考えます。



# テレワークによって、自分の技能が活かせる仕事に故郷で従事

## 活躍までの経緯・活動の内容

大学卒業後、交通事故に遭い、首から下が麻痺する重度の障害となりました。事故後、仕事に就くにはパソコンを使える必要があると考え職業訓練校で学びました。

故郷に戻ると、通勤や職場環境（バリアフリー）の問題等から、自分の技能を活かせる仕事がなかなか見つかりませんでした。

そんな時に大方町（現黒潮町）のテレワークの取り組みと出会いました。

テレワークでは、町や県の議会議事録のテープ起こしを行っています。今では一緒に仕事をしている仲間の原稿をチェックしたり、テレワークに関する講師を頼まれたりもしています。

指が動かせないことから、パソコ



## 金子英正さん

- 交通事故で首から下が麻痺する重度の障害となる。事故後、職業訓練校でパソコンを学ぶ。
- テレワークで、議会議事録のテープ起こしや地域紹介 HP のコンテンツ作成等に従事。
- 仕事に就くことで収入だけでなく健康になる、家族も安心し元気になるなどの効果が生まれている。

ンは手につけた専用の装具に固定した鉛筆で操作しています。テープ起こしでは音声入力ソフトも利用しています。

仕事を進める上では、黒潮町雇用促進協議会が仕事の振り分けや品質管理などのサポートをしており、大変助かっています。

## 黒潮町雇用促進協議会

テレワークに関する研修を実施している。研修後はOJTでスキルアップを支援し、テレワーカー18名（内障害者1名）を育成している。

町や県からのテープ起こしの仕事は、テレワーカー毎に仕事量を調整して協議会からテレワーカーに依頼している。納品された原稿の品質管理も行っている。

テレワークにより、これまで仕事をしていなかった人が仕事に就くことで、個人個人の活力が高まり地域の活性化にも繋がっている。

- 設立 2004年8月（2007年6月末より一時休止）
- 所在地 〒789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野1396-1
- テレワークに関する業務内容
  - 「導入」：テレワークへの理解を深めるための体験セミナー
  - 「学ぶ」：テレワーク講習
  - 「実践」：OJT研修
  - 「考察」：テレワーカーが自分の仕事を見直すための講座

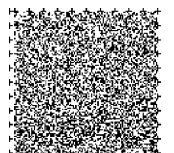
## ICTを活用してよかったこと

自分の都合に合わせて家で仕事ができるため大変助かっています。

生活にハリがでて体調まで良くなり、病院にもあまり行かなくなっています。

収入が得られるだけでなく、仕事を通じた人との出会いや、講師に呼ばれるなど人に頼られるようになったことが嬉しいです。働いている姿を家族に見せることで、家族も安心し元気になっています。

また、地域を紹介するHPの取材等で、地域の方々とお話することによって、地域の障害者に対する理解も深まっていると感じています。



# 技術研修を受講し、 CADによる図面作成の仕事に従事

## 活躍までの経緯・活動の内容

〈藤井邦行さん〉 養護学校（訪問部）を卒業後、作業所に就職を希望しましたが、地元になかったため、当団体のCAD技術講習会（会場：市内、計12回シリーズ、在宅訪問指導も実施）を受講し、当団体の紹介により、在宅でCADを使った図面作成の仕事をするようになりました。

〈臼井章夫さん〉 ハローワークで当団体を紹介されCAD研修を受講した後、現在のCAD設計の仕事をするようになりました。在宅で当団体の事務局電話受付の手伝い、団体のホームページ更新作業も行っています。講習に参加する際には、当団体が送迎をしてくれます。

## 藤井邦行さん

■ 幼少時に筋ジストロフィーを発症し、現在、人工呼吸器を使用してベッド生活。

在宅でCAD設計の仕事をしている  
（右）藤井邦行さん（下）臼井章夫さん



## 臼井章夫さん

■ 事故で肢体不自由（重度）の車椅子生活に入ってから地元商工会議所主催のパソコン講座を訪問指導によって学習。

## 課題

〈臼井章夫さん〉 仕事の忙しい時期と暇になる時期がはっきりしているので、さらに繁閑の差がないように仕事の紹介が得られれば良いと、当団体に大いに期待しています。

## 特定非営利活動法人かめかめ福祉移送

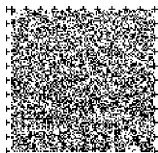
当団体理事長の横山和廣さんが、障害者の自立できる環境づくりに貢献したいと障害者向けCAD研修を開始。修了生には企業から受注したCADによる図面作成業務を紹介している。なお、納品にあたっては、横山さんが仕事の最終的な品質管理を行なっている。今後、企業に対して、事業所内部で抱えている業務の中から、障害者が在宅でできる仕事をもっと提供してくれるようアピールしていきたいと考えている。

- 設 立 2003年5月
- 所 在 地 〒710-0251 岡山県倉敷市玉島長尾400番地6  
TEL: 086-526-6064 FAX: 086-526-6064
- ホームページ <http://www.tamatele.ne.jp/~yokoyama/kamekame/index.htm>
- 業務内容 福祉有償運送（対象：要支援・介護者、身障手帳所持者、療養手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者）、高齢者、障害者の在宅就労支援事業、地域福祉情報サービス事業

## ICTを活用してよかったこと

〈藤井邦行さん〉 当団体から紹介してもらうCAD設計の仕事で年間およそA1で5枚程度の業務をこなしています。ICTを活用して在宅で仕事をして社会に貢献していきたいと思っています。

〈臼井章夫さん〉 CAD設計の仕事で年間およそA1で30枚程度の業務をこなしています。技術を磨いて自活できる収入を得られるだけの仕事をしていきたいと思っています。





# 司書として視覚障害者向けの図書館サービスに従事

## 活躍までの経緯・活動の内容

先天性の緑内障による視覚障害です。小さい頃は弱視で、盲学校で点字を習得しました。勉強などのため、当初はワープロ（点字入力）を利用していましたが、パソコン通信を始めたことから、パソコンを利用するようになりました（ローマ字入力）。

当時から電子メールや新聞のデータベース、電子掲示板などを利用していました。パソコンはほとんど独学で習得してきました。ボランティアにテキストを点訳してもらったり、対面朗

読を受けるなどして学習した他、関連書籍の電子ファイルを出版社から入手することで、学習を進めました。

図書館では、障害者サービスを担当し、視覚障害者への対面朗読や録音図書の郵送貸出業務の調整などを行っています。2000年にはパソコン利用支援が、図書館サービスの一つとして位置づけられました。その一環として「本をスキャンしてパソコンで読む」「インターネットの使い方」「CD-ROM 辞書の使い方」「点字データを読む方法」などのパソコン利用支援を実施しています。また、

視覚障害者や盲ろう者へのパソコン講習会を実施しています。



## 杉田正幸さん

■点訳のテキストや出版社から提供を受けた書籍等の電子データで、ICTの学習を進めた。

■図書館では障害者サービスを担当。図書館主催のICT講習の講師も務める。

■情報障害の克服のために、訪問指導などのボランティア活動でも活躍。

## 大阪府立中央図書館

- 所在地 〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北57-3  
TEL: 06-6745-0170 (代表)  
FAX: 06-6745-0262
- ホームページ <http://www.library.pref.osaka.jp/central/index3.htm>
- 障害者向けサービスに関する業務内容
  - ・パソコンの利用支援サービス
  - ・視覚障害者向けIT講習会（中級講座）
  - ・盲ろう者向けインターネット講習会
  - ・インターネットによる郵送貸出申込 等



杉田さんのホームページ URL <http://j7p.net/>

## ICTを活用してよかったこと

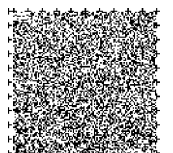
ワープロを利用するまでは、コミュニケーションするにも家族など人を介す必要がありました。ワープロで手紙などを書けるようになった時にはとても感動しました。

ICTの発達で社会参加、仕事の可能性はひろがってきています。視覚障害者も以前は、針、灸しかなかったのが、事務系の仕事やプログラマもできるようになっています。

多くの人に情報障害を克服してもらいたいと考え、プライベートの時間もボランティアとして訪問指導などを行っています。特に視覚、肢体、聴覚などの障害を複数かかえている人への支援をしたいと考えています。他にも、視覚障害者向けに情報提供するホームページを運営しています。

## 課題

ICT習得には本人の努力がもちろん大切ですが、サポートによることも大きいです。パソコンの利用で問題があったときに、どうしたらよいか、どうなっているのかといったことを教えて、本人に理解させ、次回から自分で対応できるようにしていく必要があります。あくまでも自立できることが重要で、情報検索を効率的に行う方法、サイトを使って学習する方法などが大切です。



# ICT講習会の講師にあこがれ、 今では自分が講師に

## 活躍までの経緯・活動の内容

偶然参加したパソコンボランティア講習で、全盲の講師がパソコンを使いこなしているのを見て、感銘を受けました。この講師のようになりたいと思ったことがきっかけでパソコンを始めました。パソコンのスキルは講習会の参加と独学で習得しました。

努力が実って、このあこがれの先生の引退の際、講習会の講師を引き継ぐことになりました。現在では、NPO パソボラサークルなどで視覚障害者向けパソボラサークルの講師をボランティアベースで週1回2時間程度行っています。



講習会で教える長田澄代さん  
(左から2番目)

## 長田澄代さん

- パソコンボランティア講習で出会った全盲の講師にあこがれて、パソコンを独学で学び始める。
- 現在は、NPO パソボラサークルの視覚障害者向けパソボラ講習会で、講師として意欲を伝える側になる。

## 特定非営利活動法人パソボラサークル

地域に障害者が参加しやすいICT教室がなく、参加したくても場がないことを知り、パソコンボランティア団体を立ち上げた。障害者対象のパソコン講習会の企画・運営支援、実施、在宅障害者への出張パソコン利用支援等を行っている。

その後、パソコンの研修だけでなく、習得した技術を生かして就労する場が必要だと考え、別法人の企業（らいふサポート）を立ち上げた。

- 設立 2002年2月
- 所在地 〒257-0006 神奈川県秦野市北矢名37-5 TEL：090-6523-1818
- ホームページ <http://www.pasobora.com/>
- 業務内容
  - ・ 身体障害者及び高齢者向けパソコン研修実施
  - ・ 障害者施設へのパソコン研修実施
  - ・ 「らいふサポート」では、ホームページ制作、システム開発、高齢者向けのパソコン販売（セットアップ）なども行っている。

## 課題

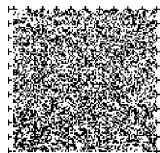
読み上げソフトの性能は上がっているのですが、値段が高いことが多いです。ソフト会社がNPOなどの講習会には無償・少額でレンタルする制度などがあれば良いと思っています。

何かのきっかけがないと、視覚障害者は自分にはできないと思い込んで、パソコンを使わないケースが多いです。視覚障害者が集まる場所（展示会、講習会）でパソコン利用のデモをするなどして、きっかけ作りが必要と思います。

## ICTを活用してよかったこと

それまで引きこもり気味で消極的な性格でした。でも、「あこがれの講師に教わって、パソコンを使いこなしたい」という思いで外出するようになりましたし、講習会で教わりに行くことで友達も増えて、同じ障害の人と出会うことで、「障害は自分だけではない」と前向きに思えるようになりました。

立場が教わる側から教える側になった今は、自らの経験をもとに、同じ視覚障害を持つ人に、パソコンを使うことで世界が広がるということを伝えたいと思って、講習会を開いています。



# パソコン通信での交流が 社会参加活動へのきっかけに

## 活躍までの経緯・活動の内容

10歳のときに髄膜炎のため倒れ、意識を回復したときには、聴覚が失われていました。手話も使えますが、慣れてくれば相手の口の動きが読めます。発声は通じていると思います。

中学（難聴学級）からパソコンが趣味でした。高校（聾学校）では、プログラムを作った経験から、親戚の電気関係の会社でプログラム作りのアルバイトをしていました。高等部（歯科技工科）卒業時に、電気関係のオペレータの求人があり、パソ

コンが好きだったことから先生に現在の会社を紹介され、就職に至りました。

補聴器など医用機器メーカーで、プリント基板設計の部署に所属し、CADでの設計、部品データベース管理などに従事しています。

職場でのコミュニケーションは紙に書くことも多いのですが、電子メール、チャットなど携帯電話やパソコンを利用して様々なやり方を行っています。人によって使っている機器が違うので、急ぐ用事では連絡方法を使い分けています。



## 曾根 博さん

■パソコンの趣味をいかして電気関係のオペレータの求人に応募。医療機器メーカーにてCAD関連業務に従事。

■パソコン通信の障害者関係のフォーラムでの交流を通じて、社会参加活動に興味をもつようになり、聴覚障害者のコンピュータ利活用を通じた就業をサポートしている日本聴覚障害者コンピュータ協会に参画。

## ICTを活用してよかったこと

仕事上では、ICTの効果を実感しています。例えば、CADのサポートなどもメールで依頼しています。問い合わせる際に、CADの画面の動きをキャプチャすることもできるようになりました。

パソコン通信の障害者関係のフォーラムで、現在参加している日本聴覚障害者コンピュータ協会の方と知り合いました。そこでの交流を通じて、社会参加活動に興味を持つようになりました。

## 日本聴覚障害者コンピュータ協会

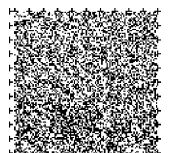
聴覚障害者の職場での情報不足を補うために本協会を設立。セミナーの開催、会員間での情報交換などを実施している。また、パソコンを使えないことが就業の障害となるが、学ぶ場所がなかったために、本会で聴覚障害者向けの講習手法を確立し、講習会を実施している。

当初はプログラマなどコンピュータ技術者を対象とした会であったが、現在は幅広くエンドユーザーも対象としている。北海道から沖縄まで200名弱の会員がいる。

- 設立 1990年9月
- 連絡先 FAX:020-4669-1797(事務局窓口) E-mail: info@mimicom.gr.jp
- ホームページ <http://www.mimicom.gr.jp/>
- 業務内容
  - ・会員同士の情報交換（メーリングリスト）
  - ・コンピュータ技術についての研修および研究（セミナー）
  - ・聴覚障害者コンピュータ技術者のための情報提供システム作り
  - ・新しくコンピュータに取組む聴覚障害者のための講座・教室などの開催
  - ・コンピュータ専門用語の手話の研究と開発 等

## 課題

インターネットや携帯電話などを使いこなせるかどうかで、かえって格差が広がっているのではないかという問題意識をもっています。ICTの利便性を充分に享受できるような教育を関係者に望んでいます。



# 支援団体での活動が認められ、 技能を活かせる会社に就職

## 活躍までの経緯・活動の内容

高校でパソコンを始め、職業訓練校でプログラミングを勉強しました。卒業後、福祉メディアステーション（入力支援機器やソフトウェアの展示、機器紹介や相談）を紹介され、遊びに行く感覚で通っていました。その後、NPO バーチャルメディア工房ぎふが立ち上がり、ワーカーに応募し採用してもらいました。バーチャルメディア工房ぎふでは、主にホームページ制作を手掛けましたが、ICT 研修も講師も担当しました。

NPO での仕事の実績が認められ、Man to Man G Animo.com 社に採用されました。現在はWebサイトの構築、運営、管理を担当しており、週5日出勤し、1日7時間の勤務をしています。



林さんが運営に携わるホームページ



## 林 映二さん

- 障害の内容は、脳性まひによる言語障害、肢体不自由。
- 職業訓練校等でICTを学び、NPOで在宅ワーカーとしてホームページ制作、研修講師などに従事。
- NPOの紹介でプログラマーとして採用され、現在Webサイトの運営、管理の責任者。

## ICTを活用してよかったこと

障害があるからこそ高い技術力が必要と考えて、ICTスキルを磨いてきました。その結果、今の仕事ができるようになりました。

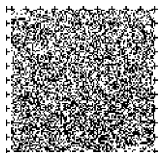
ICTは独学で学んだため、自分のスキルがどの程度なのか分かっていませんでしたが、就職して技術者仲間と仕事をしていく中で、自分のスキルが通用すること、改善しなければならないところなどが分かってきました。

また、就職するまで健常者が多い生活環境というものを知らないことで、コンプレックスも持っていましたが、就職したことでそれも解消しました。

## 特定非営利活動法人バーチャルメディア工房ぎふ

重度障害者を対象に、ICTを活用した在宅就労の支援活動を実施。一般の職場で就業機会を得にくい障害者に社会参加を促し、活躍できることを目標にしている。組織の運営、講習会の講師など障害者が中心となって活動を行っている。在宅就業支援団体として登録ワーカーに業務発注を行うが、企業への就職を最終目標ととらえ、一般企業への就職の橋渡しも行う。また、ICT研修も重視しており、登録ワーカーが講師を務めている。

- 設 立 2004年8月（1998年4月から前身の事業を開始）
- 所 在 地 〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 TEL/FAX：0584-77-0533  
E-mail：webmaster@mail.vm-studio.jp
- ホームページ <http://www.vm-studio.jp/>
- 業務内容 ICT研修、ワーカーへの業務発注、品質管理、技術サポート（ワーカーの業務内容）
  - ・ Web構築、Webアクセシビリティ評価、ICT研修講師等
  - ・ 登録ワーカー21名（うち6名が一般企業に就職）



# 短時間勤務と在宅ワークで パソコン技術を活かせる仕事に従事

## 活躍までの経緯・活動の内容

会社を退職後、通っていた作業所の紹介で、わくわくかんの会員となりました。現在の特別養護老人ホームでのシステム保守やシステム開発の仕事は、わくわくかんの紹介です。仕事は施設での短時間勤務と在宅ワークの組み合わせでこなしています。また、東京障害者職業センターから情報提供いただいた教育訓練機関のCAD研修にも積極的に参加し、技量の向上に取り組んでいます。ICTを使った各種の専門の仕事にも取り組んでいきたいと思っています。障害者就労支援団体は能力向上や就職の力強いサポーターです。



## 筒渕健次さん

■システム開発会社勤務のシステムエンジニアとして活躍していたが、発症に伴い、職場で終日仕事をして顧客との調整・交渉をこなすことが困難になり退職した。

■就労支援団体のわくわくかんの支援を受けて、短時間勤務・在宅就労型仕事に就いている。

## ICTを活用してよかったこと

自分の障害の場合、職場等で数時間以上、同じ人と人間関係を維持することが非常にストレスになってしまうという特性があります。

現在の仕事は、ICTを使って在宅と短時間勤務という仕事のスタイルを実現できているので、「自己実現と社会参加」を両立出来ていると思います。

## 課題

自分と同じ障害特性を持つ方が仕事を継続していくには、自宅の近くのサテライト・オフィス等で短時間勤務し、あとは自分の家で仕事をするスタイルが最もうまくいきます。このようなワークスタイルでできる専門的な仕事をもっとできれば、障害者の経済的な自立と社会参加が進むと思います。

現在、このようなワークスタイルができて、ICT技術を生かせる専門的な仕事に就ける機会はまだまだ少ないのが実情です。

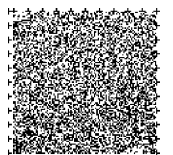
## 特定非営利活動法人わくわくかん

母体は、1971年に在宅知的障害者の家族が立ち上げた作業所である。現在は独立してICT活用関連事業を含め、精神障害者向け事業を模索している。2007年6月に就労移行支援事業を本格開始。ハローワークや地域の事業者と連携して、精神障害者が培った経験・技術を活かせる就業機会を一層創出することを目的に活動している。

■設立 2000年6月法人格取得、2006年に現団体名称に変更

■所在地 〒115-0042 東京都北区志茂 2-23-7-3F  
TEL: 03-3598-8823 FAX: 03-3598-8810  
E-mail : npo@wakuwakan.net

■業務内容 就労支援センター北の運営（主に精神障害者向けの就労・生活支援）、就労移行支援、障害者委託訓練、ジョブコーチ、障害者自立生活プログラム、ヘルパーステーション、グループホーム



# 障害者のICT利活用による社会参加のための支援の在り方

平成18年度「高齢者・障害者のICT利活用の評価及び普及に関する調査研究」（調査研究会座長：立命館大学生田正幸教授）では、障害者の社会参加活動の様子並びにICT利活用の効果を取りまとめるとともに、障害者のICT利活用を通じた社会参加を支援する団体・機関や企業の状況を踏まえ、障害者のICT利活用を促進するために有効な支援の在り方について検討を行いました。

この報告書の中では、障害者がICTを利活用して社会参加にいたるまでには、「普及・啓発」「情報環境整備」「ICT技能習得」「社会参加支援」といった段階ごとの支援が必要であり、それらをコーディネートする機能が重要になること、様々な機関・団体等が連携、相互補完しながら、地域において支援メニューを提供する総合的な体制を整えることが求められることなどが指摘されています。

（報告書：総務省ホームページ [http://www.soumu.go.jp/joho\\_tsusin/b\\_free/b\\_free03.html#bf2-6](http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/b_free/b_free03.html#bf2-6)）

## 障害者のICT利活用による社会参加のための支援の在り方

### 障害者への支援

- 普及・啓発**
  - ICTを活用した社会参加の実例紹介などによる動機づけ（利活用例紹介、初動相談、ICT講習）
  - 必要とされる支援メニューのコーディネート
- 情報環境整備**
  - 専門家の助言など障害の状況に応じた機器選択の支援（AT機器相談、セッティング）
  - 情報通信機器利用時における健康面でのアフターケア
- ICT技能習得**
  - 障害者のICT研修に適した講師の育成
  - 実際の仕事などに即した実践的なカリキュラムの実施（教育・研修、eラーニング）
  - 在宅学習に対応したeラーニング
- 社会参加支援**
  - インターンシップ、就労移行支援など就職の支援（紹介、相談、在宅就業支援）
  - 営業、品質管理、就業管理などテレワーカーへの支援

### 支援団体、自治体、地域における有効な支援実施のための方策

#### ノウハウ・リソースの共有

- AT機器の効果的な利用方法などのノウハウや、研修テキストなどリソース（資源）の共有

#### 仕事受注の促進

- ショッピングサイト運営などの起業や、Webアクセシビリティ評価、ユニバーサル製品開発への参画など、新しい職域の開拓
- ノウハウ蓄積、実績づくり、仕事のベース確保などでメリットのある公的機関からの継続的な受注体制の確立

#### 連携の強化

- 地域における最適な支援プログラムづくりなど障害者支援団体や行政機関間での連携
- 技術サポート、実践的なカリキュラム策定などにおける企業との連携
- インターネット利用の際のルール、マナーの習得など教育機関等との連携

### 企業への支援

#### 障害者雇用のための普及啓発 情報提供

- 障害者雇用の事例紹介などのセミナーの実施
- 各種公的助成制度等の情報の一元的な提供

#### 障害者受け入れのためのコンサルティング

- 障害者雇用についての職員理解の促進
- AT機器整備や会議等でのコミュニケーション方法などソフト面を含めた就業環境整備への助言・支援

※ AT 機器：障害者支援のための機器

### 支援の在り方（総括）

#### 地域における総合的な支援の実施

- 様々な機関・団体等の連携、相互補完により地域全体での支援メニューを提供
- 行政機関において地域のビジョン・方向性の提示や各機関・団体のメニューの調整などを実施

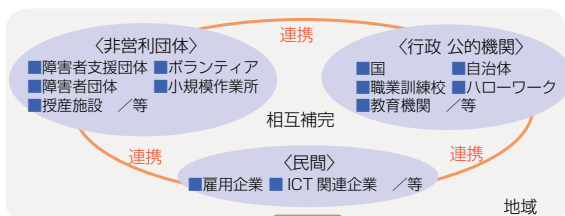
#### コーディネート機能の充実

- 障害者一人ひとりの志向、適性、障害種類や程度、生活環境などに応じた最適な支援をプランニング

#### 障害者の自立のための支援

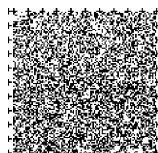
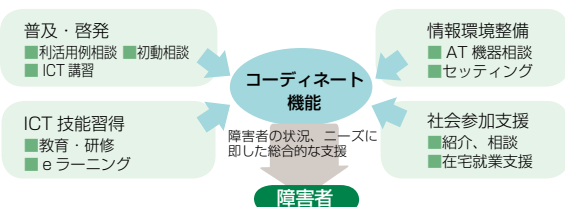
- 本人のやる気を引き出し、自立を促す視点にたった支援を実施

### 地域における総合的な支援のイメージ



### 総合的な障害者支援施策

#### コーディネート機能のイメージ



## 総務省の事業紹介

総務省では、年齢や身体的な条件による ICT 利用機会の格差（デジタル・ディバイド）を是正し、高齢者・障害者を含め誰もが ICT の恩恵を享受できるような社会の実現に向け、情報バリアフリー施策に積極的に取り組んでいます。

### 総務省における取り組みの方向性

#### 利用環境のユニバーサル化

高齢者・障害者を含めた誰もが ICT を利用しやすい環境の整備

#### ■情報通信におけるアクセシビリティの確保

情報通信機器・ウェブコンテンツに関する指針等の策定、周知普及  
地方公共団体のウェブコンテンツのアクセシビリティ確保

#### ■放送におけるアクセシビリティの確保

字幕・解説放送等の普及促進

#### 個別ニーズ支援

高齢者・障害者特有の障壁を取り除いた環境（バリアフリー）の整備

#### ■個別ニーズに対応した機器・サービスの普及・促進

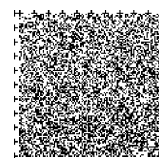
高齢者・障害者向け機器・サービスの開発・提供に対する助成

#### ■個別ニーズに対応した支援の促進

情報提供体制の整備、支援人材（ボランティア等）の能力向上

### 総務省における主な施策の概要

施策	概要
電気通信分野のアクセシビリティ確保	高齢者や障害者が使いやすい電気通信機器・サービスの開発等を促すガイドラインの策定や普及促進を支援しています。 ■電気通信アクセシビリティガイドラインの概要 高齢者や障害者が、固定電話、携帯電話、FAX などの電気通信機器やサービスを円滑に利用できるよう、提供者が企画・開発・設計・提供等を行う際に配慮すべき事項を示したもの。
地方公共団体のウェブコンテンツのアクセシビリティ確保	高齢者や障害者を含む誰もが公共分野のホームページ等を利用することができるよう平成 17 年 12 月に「みんなの公共サイト運用モデル」を策定し、周知普及を行っています。 詳細：http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/w_access/index.html
視聴覚障害者向け放送の充実に向けた取組	字幕番組、解説番組及び手話番組を制作する公益法人に対する助成を実施しています。また、字幕放送普及目標の設定や字幕放送等の進捗状況の把握・公表を行っています。 ■高齢者・障害者向け通信・放送サービス充実研究開発助成 高齢者・障害者の利便の増進に資する通信・放送サービスの開発を行うための通信・放送技術の研究開発を行う者に対する助成を実施しています。 詳細：http://www2.nict.go.jp/q/q266/s807/7_3.html ■身体障害者向け通信・放送役務提供・開発推進助成 身体障害者向け通信・放送役務の提供又は開発を行う者に対する助成を実施しています。 詳細：http://www2.nict.go.jp/v/v413/104/index.html
情報提供体制の整備	障害者の ICT 利活用支援の基盤となる情報収集・提供機能に関する実証評価として「ICT 支援ポータルサイト」を構築しました。現在は NPO 法人 e-AT 利用促進協会「AT-net 新しいバリアフリーのポータルサイト」において活用されています。（http://www.e-atnet.jp/）
情報通信人材研修事業支援制度	この制度の中で、障害者の ICT 利活用を支援する技能を有する者を育成するための研修事業に対する支援を行っています。



# 障害者の ICT を活用した社会参加 事例集

総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課  
(平成 18 年度事業)

発行者 総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課  
〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2  
電話 03-5253-5743 FAX 03-5253-5745

制作協力 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社  
〒108-8248 東京都港区港南 2-16-4  
電話 03-6711-1244 FAX 03-6711-1289

印刷・製本 株式会社 港洋社  
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-22-6

イラスト 若杉さえ子

デザイン 有限会社 スタジオ・サラ

禁無断複製、禁無断転載

